

ニ多キガ如シ。

一重ニテハ殊ニそめぬよしのニ多キ様見受ケラルサレバ此そめぬよしのノ多キ東京ニテハ櫻樹ノ美觀ヲ損スルコト少カラザルベシ又普通ノ庭ニ於テモ同様ナレバ今少シ是ガ豫防法ニ注意アリタキモノナリ夫ニハ櫻樹ノ未ダ發芽セザル時ニ其病枝ヲ悉ク截リ捨テ他ニ蔓延スルヲ防グニアリ序ニ *Taphrina* 屬ノ菌類ニ侵サルル他ノ植物ヲ舉グレバ

すももノふくろみ病ノ病原菌ハ *Taphrina Tulasne* ナリ之ハ前回ニ於テ説明アリタレバ省ク、ももノ縮葉病ノ病原菌ハ *Taphrina deformans Tulasne* ニシテ菌絲體ハ該樹ニ寄生シ其枝ニ於テ越年シ五六月ノ頃葉ノ一二寸ニ延ビタル際葉ニ帶紫赤色又ハ帶黃淡綠色ノ腫起セル斑點ヲ生ジ漸次全葉ニ擴ガリ表裏灰白色トナリ遂ニ黑變シテ乾燥凋落ス子實層ハ葉ノ兩面ノ上皮下ニ成生シテ子囊ヲ生ズ。

なしノ葉腫病ノ病原菌ハ *Taphrina bullata* (Berk. et Br.) *Tulasne* ニシテ葉ニ膨大セル斑點ヲ生ジ淡黃色ニシテ其部ハ葉ノ組織他ノ部ヨリ厚クシテ脆弱ナリ子囊ハ裏面ノ表皮下ニ生ズ此時ニハ表面少シク白色ヲ呈ス漸次黒色ニ變ジテ枯凋シ遂ニ葉ノ脱落ヲ促ス。

うめノ膨葉病ノ病原菌ハ *Taphrina Mama Nishida* ニシテ新梢ヲ發生スル頃病徴ヲ發シ病梢ハ成長遲滞シ莖葉共ニ多肉質ニ變ジテ紅色ヲ呈スルモ後ニハ灰白色トナリ遂ニ黑變腐敗シテ脱落ス

子囊ハ葉ノ上皮下ニ成生シ上面ニアル子囊ハ下面ニアルモノヨリモ早く發生ス。
等ナリ

本會記事

明治四十五年五月十一日午後一時ヨリ本校第二圖書室ニ於テ本會第二十三回例會ヲ開ク新部長矢部教授開會ノ辭ヲ述ベラレ且理科會ニ對スル今後ノ諸注意ヲ與ヘ給ヘリ本日ノ談話次ノ如シ、

- 一 酸酵ニ就キテ 理、三 林 薫
- 理、三 奥田 いし
- 理、三 安井 とく
- 一 水道ニ就キテ 理、四 山口 秀
- 同 小西 みさ
- 同 松本 春野
- 一 櫻ノ天狗巢病ニ就キテ 理、四 山田 ひろ
- 理、四 本間 なを
- 一 萬年筆ニ就キテ 理、四 矢部 教授
- 「セクオイア」及「タキンヂウム」ニ就キテ

此ノ外ニ植物室ヨリ蘇鐵ノ花ヲ出品セラレ保井助教授其レニツキテ説明セラレ動物室ヨリモ左ノ標本ヲ出品セラル。

海リボン だに 長者貝 八ツ代貝

本日ノ出席者左ノ如シ

中川校長 岩川教授 森教授 平田教授 乙部教授 矢部教授 近藤教授 平島助教授
北澤訓導 渡邊訓導 保井コノ 小川ヨシ 黒田チカ 江澤駒路 星キイ 牧田ラク
小高クワ 高井千代 藤村ヨネ 田中ナホ 等ノ諸氏

會 告

從來學校ノ事業トシテ經營シ來リタル學術談話會ノ事業ハ此度學校長ノ命ニヨリテ開散ノ事ト相ナリ同時ニ純粹ニ本校生徒間ノ事業トシテ學術談話會ヲ起シ東京女子高等師範學校學術談話會ト命名シ學校長ヲ會頭ニ仰ギ其内ニ三部門ヲ設クル事トシ別項改正規則ニ從ヒテ萬事取扱ヒ候事ト相成リ申候而シテ本部即同會理科部ハ本規則ノ下ニ理科學術談話會ノ事業ヲ其儘繼承ノ事ニ決定致シ候、就テハ從來校外會員トシテ御盡力下サレ候諸姉ハ爾今本會贊助員ノ御名ノ下ニ舊ニヨリテ御助力下サレ度願上候、一々御了承ノ御返答載キ候モ御手数ト存ジ候間來十月卅一日迄ニ御異

存ノ方ニノミ御返事ヲ載ク事ト致シ夫迄ニ何かノ御返答無之向ハ自然御承諾下サレ候事ト承知致シ度此段得貴意候也

東京女子高等師範學校

大正元年九月十六日

學術談話會理科部

雜誌の名稱變更 前述ノ理由ノ下ニ次號ヨリ雜誌ノ名稱ヲ次ノ如ク變更致シ候

東京女子高等師範學校學術談話會理科部會報

東京女子高等師範學校學術談話會規程

第一條 本會ハ本校生徒ガ平素學修スル事項ヲ互ニ談話シ知徳ノ増進ニ資スルヲ以テ目的トス

第二條 本會ヲ文科理科技藝科ノ三部ニ分ツ

第三條 本會ハ本校生徒ヲ以テ組織ス生徒ハ其學修スル分科ニ從ヒテ第二條ノ三部ノ一ニ屬スル

モノトス

第四條 本校卒業生ハ本會ノ贊助員タルコトヲ得

第五條 本會ハ本校教官ヲ請フテ客員トナス

第六條 本會ニ會長ヲ置ク會長ニハ校長ヲ推戴ス